



もり ひろ こう いち ろう  
**森廣浩一郎**

行動開発系教育コース  
教授

このページでは日本学術振興会の科学研究費助成事業による助成を受けた研究を紹介いたします。同助成事業は、全ての分野の「学術研究」を段階に発展させることを目的に、独創的・先駆的な研究に対して助成を行うものです。基盤研究、挑戦的萌芽研究、若手研究などに分かれており、基盤研究は、一人または複数の研究者が共同で行う研究が対象。研究期間は3～5年です。

（平成24～26年度科学研究費助成事業・基盤研究に採択）  
**ブログ型学習環境におけるコメント記入のための  
テキストマイニングによる教師支援**

**大**

量に蓄積された文書（テキスト）の集合から有用な情報を採掘（マイニング）する方法としてテキストマイニングという技術があり、さまざまな活用が試みられています。類似する方法で文書を分析するアイデアは、昔から

紙文書を対象として試みられることもありましたが、集計作業に多大な時間と労力を要するため現実的な手法とは言えないものでした。しかし、

計算機上での自然言語処理技術の発達に伴いこのような分析が実用的になり、近年では教育に関する文書を対象とした研究も行われています。

私たちの研究室では、図書

の推薦文を児童が記入する

ブログ型の学習環境を用いた

授業について実践的に研究してきました。今回の研究では、

教員が児童へ所見（コメント）

を記入する部分に注目し、

テキストマイニングを活用した

教員の支援について検討しました。ここでは、その一環で実

施した、小学校教員が記述し

た所見文書の一つである通知

表の所見欄での分析について

紹介します。

所見欄の記述は「グラフ」の

ように校務の中でも教員の負

担感が高く、その理由として

児童の様子を記述する適当

な言葉を思い付かないという

ものが見られます。教職経験

を積み、何度も所見を書いて

いると、記述パターンが固定化

して単語のレパートリーが広

らず、偏りが生じやすくなり

ます。このような偏りとして、

他の教員と比較して特に多用

しがちな単語があるため、他

の人の比較において、その人

が多く使用する単語を特徴

単語と呼ぶことにしました。

本研究では、所見データに

対してテキストマイニングを利

用した教員間比較を行い、教

員ごとの特徴単語を抽出す

るとともに、その使用実態を

教員自身が手作業で抽出し

た多用しがちな単語と比較

しました。その結果、特徴単語

は所見でより偏った使い方が

されており、多用しがちな単

語を教員が自力

で見つけるのは困

難なことが確認さ

れました。次に、教

員本人の特徴単

語を提示すること

で、自分が偏って

使用している具体

的な単語に気付

くことができ、そ

の固定化を避け

られる可能性が確

認されました。ま

た、他の教員の特

徴単語を提示す

ること、その中

から自分の所見

で今後使ってみ

い新たな単語を見

つけ出し、レパート

リーを広げるため

の気付きを与える

ことができました。

これらのことから、

所見記述の支援

機能をテキストマ

イニングで実現で

きることを明らか

になりました。

【グラフ】校務の負担感(全学校) n=176 2012年5~6月実施

